資料１－Ｂ

経済･雇用分科会の議論整理表

重点戦略課題	重点的な取組み	「分科会の議論」，「市の素案に対する意見」における具体的な委員意見
中小企業や創業に挑戦する市民へのきめ細やかな支援	■小さな企業･起業への実効性の高い支援 ●中小企業，零細企業は，多種多様であり，ひとくくりではなく，きめ細やかな支援が必要 ●元気基金は，長期短期の資金需要に対し，リスク負担を十分に考慮した柔軟な制度設計で行うことが望まれる ●中小企業支援センター等産業振興策を実施する市や財団などの主体の役割を点検，見直し，相談支援機能の実効性の向上に努める ●企業経営者の情報と自己啓発トレーニングを可能にする仕組みの構築	・中小企業対策というより零細企業対策をたてる必要があるのでは（内田会長） ・札幌商工会議所会員の一部は，零細企業（荒委員） ・中小企業全体ではなく業種別の整理をしていくことが大事（高田委員） ・元気基金は，今までと同じやり方をするならば，例えば，札幌に本拠を置く新規の法人の法人市民税を5年間無料にするなどに振り向けるべき（田村委員） ・長期資金を拡充することで資金需要の対応力を高めるべき（田村委員） ・補助金や融資は，廃業してしまうこともあるということを頭に入れておくべき（高田委員） ・元気基金の活用は，中小企業センター，信用保証協会，融資銀行，三者の認識が一致しなければ，企業の活性化はない。故に，焦点を違えないことが大切（高田委員） ・元気基金は，新しい仕組みでやっていく観点でやってほしい（内田会長） ・「リスク負担」についての情報，見通しを市はきちんと提供すること（内田会長） ・中小企業支援センターの機能を民間委託し，夜間も受付る体制にする等の見直しをすべき（田村委員） ・時代の変化に対応できる若くて機動力のある知識を有する人材の活用によるパートナー機能の充実（田村委員） ・財団は，違う人材を入れて活性化させるなど，市民側・企業側の視点を取り入れる組織体とする工夫を（内田会長・高田委員） ・家庭事情に踏みこんで相談できるような，かつ先の戦略を持つ相談員が必要（高田委員）等
安心して働ける環境づくり	■市民や地域のニーズに合った産業･雇用施策 ●人材集約型の地域ビジネスの中での多様な雇用機会の創出 ●芸術・文化・祭りなどの積極的な情報発信を通した産業，雇用の創出 ●特に女性，高齢者，障がい者，母子家庭などへの就労支援機能の強化 ●市･道･国との連携のもと労働，職場環境に関する相談支援機能の強化と体制の整備	・人材集約型の在宅介護などの分野で雇用創出の工夫は考えられないか。ただし，安定した良質な雇用でなければならない（工藤委員） ・若者の職業意識の形成，啓発の実効性を高めるため事業アイディアを公募し運営を委託、実績を評価できるようにする（田村委員） ・男女共同参画における女性の自立，特に母子家庭の就労は難しく，一層，企業の理解と支援体制が必要である（高田委員） ・人権における障がい者の自立と支援，そして高齢者の経験,能力をいかした積極的な就労支援が大切である(高田委員) ・就労支援は，働く意欲，自信をかきたて，相談者の未来像が描かれるような生活プラス職業相談の戦略がなければ，今日的就労にはつながらない。そのような指導員の養成，支援機能の強化が必要。※キャリアコンサルタントの活用も大である（高田委員） ・女性の働く場の改善を積極的に言っていいのでは（内田会長） ・福祉の関係でも社会参加する仕組み，市民の心を育てるやり方の工夫を（内田会長） ・雇用，起業におけるトラブル時の対応を施策の一環とするべき（工藤委員） ・雇用関係について国とは別の立場で市はどうするのか考えてほしい（工藤委員） ・雇用トラブルを回避し，失業者を増やさないための労使双方への支援（工藤委員） ・公契約における公正な労働基準確保条例の制定（工藤委員） ・　市はコーディネーターとしての役割を果たす形で，市民と連携しては（工藤委員）等

重点戦略課題	重点的な取組み	「分科会の議論」，「市の素案に対する意見」における具体的な委員意見
協働による観光振興とコンベンション事業の推進	■札幌独自の魅力づくり･情報発信の強化 ●札幌独自の芸術・文化・祭りなどの積極的な活用と発信 ●大通公園，街なみ，季節感ある山なみなど美しい魅力的な景観づくりと使い方の工夫 ●地域に目を向けた取組みによる札幌ブランドの育成 ●札幌の魅力をノウハウや生活スタイルも含めて札幌ブランドとして確立･発信	・大道芸に対する支援など，観光の目玉づくりを（高田委員） ・ 観光案内についての動線を今一度再点検（高田委員） ・観光客の中にもお年よりの方はおり，駅やテレビ等周辺など人が集まる場所の利用し易いバリアフリー施設整備は大切（荒委員） ・小さな町に負けないように，役所と企業のコミュニケーションを積極的に（荒委員） ・ 世界に発信する経済・文化・情報のメッカ国際都市札幌として，大通公園が大道芸人の集積等により，表現活動のステージになることを期待する（高田委員） ・大通公園のイチョウ，紅葉は，海外の観光客も感動しており，もっと工夫していくとすばらしい場所になる（荒委員） ・大通公園周辺については宣伝車などについて一定の利用規制をしては（荒委員） ・（大通公園などは）利用規制をするのではなく，時間がかかっても自発的な形で，望ましい使い方がされていく方がよいのでは（内田会長） ・宝石に等しい歴史感のある赤レンガ北海道庁舎周辺の活用を北海道と市で連携して進めて欲しい（高田委員） ・ボランテイアで藻岩山など山なみが紅葉で一杯になるくらいの風景をつくっては。生態系を守りながら（高田委員） ・ すすきのは知名度が高い犯罪のないまちづくりをめざすべき（高田委員） ・フィルムコミッション事業を市民とともに推進し，映像資料，建物の保存を進め「映像ミュージアム」等をつくり，芸術･文化の観光資源とする（田村委員） ・ 訪れた人が住みたくなるようなまちづくりを進めるため（案内機能や外国語標記の充実，啓発活動や医療支援の充実）のまちづくり活動に対する支援（田村委員） ・地域の芸術･文化などの情報を大切にするべき。札幌で評判の高い情報はよそでも評判になり，札幌ブランドとしての情報になっていくことが考えられる。新しいことをやるだけではなくて，今ある芽をネットワークにうまくのせるなどして，辛抱強く育てていくことも必要では（内田会長） ・ 集客のためには，「行ってみたい」と思わせる情報を発信することが重要。「札幌に来たら何かある」というものが必要であり，そこを具体的に考えていく時期に来ている。民間も市も発想の次元を変えなければならない。（内田会長） ・札幌の「売り」を明確にし，意識的に打ち出す必要がある（平本委員） ・顧客（市民，観光客など）サービスの向上は信頼の獲得につながるものであり，ＩＴの活用により工夫が可能ではないか（平本委員）等

資料１－B

重点戦略課題	重点的な取組み	「分科会の議論」，「市の素案に対する意見」における具体的な委員意見
札幌の知恵を活かした新たな産業の創出	■市民や地域のニーズに合った産業施策 ●ニーズが高まる健康･福祉・医療分野の産業育成 ●芸術・文化・祭りなどの積極的な情報発信を通した産業，雇用の創出 ■札幌独自の魅力づくり・情報発信の強化 ●地域に目を向けた取組みによる札幌ブランドの育成 ●札幌の魅力をノウハウや生活スタイルも含めて札幌ブランドとして確立･発信	・医療･福祉･健康面の分野は，今後ニーズが増えるので，この分野での産業育成，誘致が必要（内田会長） ・農業と薬学の研究との連携で新しい都市型農業のあり方の検討（高田委員） ・情報発信，科学する農業についての学習と実践。農業，遺伝子問題，札幌ブランド（付加価値）※農芸科学,薬学など産学官共同を密にする（高田委員） ・福祉とＩＴを結ぶなど，行政のニーズを企業にふって，それにより新しい技術や雇用が生まれることがあってもいい（内田会長） ・近隣地域と連携した食品分野の新産業創出（田村委員） ・ファッション，食品など分野別のコンテストなどで，一つ一つの業種を丹念に活性化させ，中からいいものが出てきて，札幌ブランドとなっていくのでは（高田委員） ・ 製品としてではなく，暮らしやすい住環境，医療面でのサポートなど，イメージとして札幌ブランドをとらえ，高め，浸透させ，アピールしてはどうか（平本委員）等
アジアの産業ネットワークの拡大	■札幌独自の魅力づくり・情報発信の強化 ●札幌の魅力をノウハウや生活スタイルも含めて札幌ブランドとして確立･発信	・札幌を気に入って定着してくれる外国人を大切にすることが宣伝につながるのでは（田村委員） ・ 物産展・商談会の開催などを見直し実効性の高いものとし、国際ビジネスを促進するための環境づくりを進める（田村委員） ・札幌から海外に進出した企業の動きなどの分析をしっかりと（高田委員） ・ 世界の中での札幌を本当にどうしていかなければならないのか，というところで考えなければならない（内田会長）等
そのほか		・都市化において農業の再生は難しいが人材育成が必要（高田委員） ・食は生きる力なり，市民は良質な野菜等の供給を願っている，生産者と供給者の信頼の構築（高田委員） ・都市型農業札幌市の生産，集散，消費地としての役割と責任（高田委員） ・ 世代別（20 代 30 代 40 代 50 代 60 代）のまちづくり市民会議（完全公募制）を常設し随時市長に提言する(田村委員)等